

## 指標の見直しについて

### 1 指標の見直し

3 東日本大震災及び原子力災害の記憶と教訓の伝承		
(2) 伝承館による記憶と教訓の伝承		
指標名	現況値	目標値 (R12 年度)
東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者数		
・来館者数	R2 年度 43,750 人	75,000 人
・研修参加者数	R2 年度 3,500 人	10,000 人

#### (1) 目標値について

- 生涯学習基本計画では「東日本大震災及び原子力災害の記憶と教訓の伝承」を取り組む施策の方向性として定めている。
- 伝承館の「資料の収集・保存」、「調査・研究による教訓の抽出」、「展示・プレゼンテーションによる伝承」、「研究による学習機会の提供」の4つの設立理念に基づいた事業は、施策を支える重要な取り組みとして、生涯学習基本計画上に位置付けられており、達成度を客観的に評価するため、来館者数、研修参加者数を指標とした。
- 現目標値は伝承館を設置した令和2年9月から3月までの開館直後の半年の実績で推定。令和3年度から年々増加し、令和12年度に来館者数が75,000人、研修参加者数が10,000人に達することを目標として設定した。

#### (2) 見直しの理由

- 来館者数実績が令和4年度80,119人、令和5年度93,759人と令和12年度の目標値75,000人を上回った。令和6年度も同様に上回る見込みである。  
研修参加者数実績も令和4年度11,475人、令和5年度13,955人と令和12年度の目標値10,000人を上回った。令和6年度も同様に上回る見込みである。
- 実績から、来館者数75,000人と研修参加者数10,000人は目標として過小なことが明らかとなったため、指標の見直しが必要である。

#### (3) 新たな目標値の考え方

(来館者数)

- 令和5年度までの3カ年の伝承館入館者数と福島県観光客入込数を基に、観光客入込数に占める伝承館入館者数の割合を算出。→0.169%  
(令和2年度は9月～3月の入館者数であるため対象外とした)
- 令和7年度～11年度の福島県観光客入込数の目標値に0.169%を乗じて、伝承館の目標入館者数を算出(千人単位にまるめ)。  
(60,000千人(令和12年度観光客入込数(福島県総合計画指標)×0.169%)

- 復興祈念公園やカンファレンスホテル整備（ともに令和8年3月完成予定）などの外部要因による入館者増に加え、企画展の実施、自治体や関係団体と連携したイベント開催、ホープツーリズムツアーの誘致等の取組、並びに福島国際研究教育機構の整備や居住者の回復等による交流人口の拡大を活かした誘客促進の取組により入館者の増加を図り、目標入館者数の達成を目指していく。

(研修参加者数)

- 研修参加者は、来館者の増加と比例傾向にある。
- 令和5年度の来館者に占める研修参加人数の割合14.9%を令和12年度来館者数に乗じて、目標研修参加者数とした。

(101,000人(令和12年度来館者数)×14.9%、百人単位にまるめ)

3 東日本大震災及び原子力災害の記憶と教訓の伝承		
(2) 伝承館による記憶と教訓の伝承		
指標名	現況値	目標値 (R12年度)
東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者数		
・来館者数	R5年度 93,759人	101,000人
・研修参加者数	R5年度 13,955人	15,000人

## 2 報告

福島県商工業振興基本計画の個別指標63福島県次世代育成支援企業認証数が、令和6年3月19日改訂されたことに伴い、福島県生涯学習基本計画における指標に合わせて改訂するもの。

個別指標63 福島県次世代育成支援企業認証数

	目標値										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
変更前			796	809	822	835	848	861	874	887	900
変更後			947	1,042	1,137	1,232	1,327	1,422	1,517	1,612	1,707
実績値	765	875	947								

### 【見直しの理由】

公共工事等への入札時の加点メリットを背景とした建設事業者の申請や男性向けの新たな育児休業制度が制定されるなど、社会全体としてワーク・ライフ・バランスの重要性の認識が高まっている背景から、令和4年度の認証数が令和12年度の目標を上回った。

今後も同程度の件数が見込まれることから、上方修正することとしたい。

### 【変更後の目標値の設定根拠】

直近5年の認証件数の平均95件の年間増を目標値として設定する。